

授業作り	重点	一人1台タブレット端末の効果的な活用法を探究し、生徒一人ひとりが主体的に学習に取り組める授業作りを目指す。
環境作り		教材の内容や提示方法の工夫、協働的な学びの実現に向けた学習形態の工夫などを通して、学びに向かう環境作りを目指す。

■ 各教科の取組について

教科	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子などから)	目標達成のための取組
国語	令和5年度実施の新宿区学力調査では、「漢字の読み書き」や「自分が書いた文章や話すときの原稿を見直すこと」について課題があった。	- 授業や家庭学習において、デジタルドリルなどを活用し、反復学習を行うことを通して、「漢字の読み書き」の定着を図る。 - 文章を整える学習を適時適切に取り入れることで、推敲する力を高める。	①デジタルドリルの活用 ②文章や原稿の推敲
数学	令和5年度実施の新宿区学力検査では、「式やグラフを用いて説明すること」について課題があった。	- 基本用語を理解し、反復練習を行いながら知識の定着を図る。 - 身に付けた知識を根拠として、解法について説明する活動を増やしていく。	①デジタルドリルの活用 ②小集団での説明・発表 ③各単元の目標達成シート
理科	令和5年度実施の新宿区学力調査では、「電流と電圧に関する分野」や「化学反応や質量に関する分野」について課題があった。	- 基本的な化学反応について理解し、デジタルドリルを活用した反復練習を行い、考え方の定着を図る。 - 身に付けた知識や考え方をもとにして、実験結果から考察を広げていく活動を増やしていく。	①デジタルドリルの活用 ②小集団での活動やレポートの作成の充実 ③ワークシートの工夫
社会	令和5年度の学力調査では「正しい選択肢を選ぶ、用語を書く問題」に1, 2年生ともに課題があった。	- 基本用語などを理解し、知識の定着を図る。 - 用語を使って記述することや、意味を理解しながら説明をする機会を増やす。	①デジタルドリルの活用 小テストの実施 ②ワークシートの工夫、用語を使った話し合い活動の充実 ③用語そのものを活動の中で調べさせる機会を作る。
英語	令和5年度新宿区学力定着度調査では、「英文や対話に応じた英文記述」と「長文の読解力」に課題があった。	- 場面に応じた即興的な対話活動を帯活動として行い、表現力を高める。 - 多様な英文に触れ書くことを習慣化し、読み取る力を伸ばす。 - 反復練習や小テストを十分に取り入れ、基礎・基本となる語彙力を伸ばす。	①即興的表現の帯活動の充実 ②デジタルドリルの活用 ③少人数グループによる指導 ④ICT機器を活用したテストや発表活動 ⑤AI音読課題を使用

■ 効果的なデジタルドリルの活用について【チェックリスト】

【区教委提出用・様式2】

- ☑ 学校は年度当初にデジタルドリルの活用について保護者及び生徒へ説明をしている。
- ☑ 学校は活用に際して、IDやパスワードについて保護者及び生徒へ説明をしている。
- ☑ 生徒及び教員がデジタルドリルの内容や機能について概ね理解している。
- ☑ 学校は生徒が学校生活においてデジタルドリルが活用できるよう促している。
- ☑ 学校は家庭におけるデジタルドリルの活用について具体的に指導している。
- ☑ 学校は全ての学年で定期的に様々な場面でデジタルドリルの課題等を生徒に与えている。
- ☑ 担任等がデジタルドリルを活用し、生徒一人ひとりの傾向を把握し、適した課題や指導を行っている。

■ 自校における効果的な学力定着度調査を活用した事後指導について

・学力定着度調査の結果を基に、カリキュラム生成された問題に取り組むことで、個別最適化された問題に取り組むことができた。

■ 自校における効果的なデジタルドリルの活用について（事前・事後指導を含む）

・デジタルドリルの範囲を指定し、学習した内容を宿題などにすることで、復習として効果的であった。

・三者面談期間の課題としてデジタルドリルを活用した。

・授業の最後に10分ほど復習の時間を設け、復習することで「知識の定着」を図った。

■ HP掲載／内容更新チェックリスト

区教委への様式提出締切日	更新日	更新確認者職名・氏名
例	5月6日（金）	主幹教諭・新宿太郎
第1回 5月13日（月）締切	5月13日（月）	副校長・多久知明
第2回 11月11日（月）締切	11月19日（火）	副校長・多久知明
第3回 3月10日（月）締切		